

## 第3学年 国語科学習指導案

は組 男子 19名 女子 20名 計 39名  
指導者 中 熊 豊 仁

### 1 単 元 読んで、感想をもとう

(教材「イルカのねむり方」「ありの行列」)

### 2 単元について

#### (1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第2学年「じゅんじょに気をつけてよもう」の学習で、時間的な順序、理由の説明の順序などを考えながら、内容の大体を読み取る能力を身に付けてきている。また、「だいじなところに気をつけて読もう」の学習で、大事なところはどこかと考えながら読もうとする態度も身に付けてきている。さらに、まとまりに注意しながら読み物を読んだり、自分の思いをもったりしたいという願いをもっている。

そこでここでは、段落の要点を抜き出しながら、内容のまとまりをとらえる能力や文章の内容や表現の仕方についての感想をまとめようとする態度を身に付けさせたいと考え、本単元「読んで、感想をもとう」(教材「イルカのねむり方」「ありの行列」)を設定した。

この学習は、自分なりの課題をもって図書資料で読んだり、実際にインタビューしたりして調べたものを相手に分かりやすく伝えようとする「せつめいのしかたを考えよう」の学習へと発展するものである。

#### (2) 指導の基本的な立場

教材「イルカのねむり方」「ありの行列」は、研究者が行った実験・観察、研究を基に、イルカのねむり方やありたちの行列ができるわけについて、順序立てて分かりやすく述べている説明文である。子どもに人気のあるイルカや身近な生きものであるアリを題材としている両教材は、生物のさまざまな不思議に興味を持つ子どもが多いこの期の子どもたちに適した教材である。また、両教材共に、問題提起の部分、実験・観察、研究の部分、結論と大きく三つに分けられており、それらは、指示語や接続語、文末表現を手掛かりにして文章構成がつかみやすくなっている。さらに、調査方法—結果—考察という科学的思考過程の表現の仕方を学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、ありの行列ができるわけやそれを筆者がどのように説明しているのかということを知り明かした上で、「生き物の不思議」についての感想を書くことを読みの目的として読み進めていく。その際、内容のつながりが分かる接続語や指示語の役割、文末表現などに気をつけながら段落ごとに読み取らせる活動を通して、段落のまとまりをとらえさせることが大切である。

具体的には、まず、**生活科や理科で生き物を観察した経験を想起させたり、身近な小動物の行動について不思議に思うことを発表し合ったりさせたりして、興味をもたせる**。また、感想を書くためには、「何が」「どのように」書かれているのかという二つの観点が必要であることを「いるかのねむり方」の読み取りを通して考えさせたり、生き物についての読み物を並行読書して「生き物不思議カード」を作成することを伝えたりして、読んで感想をもとうとする単元への意欲付けも図る。

次に、「ありの行列」を、二つの観点に基づいて読み取っていく。そこで誰がどんな疑問や考えをもったのか、どのようにして観察・実験・研究を行ったのか、その結果分かったことは何かなどに着目させ、文章構成の基本を理解させる。また、十分な内容理解とともに、順序性や前文をまとめる言葉などの大切さに気付かせ、それらの言葉を使いながら自分なりに要点をまとめさせる。

さらに終末で教材文や並行読書を行った読み物の感想を書き、学習を振り返らせる中で、文章構成や順序性のある言葉や前文をまとめるような言葉が、内容をまとめたり、伝えたりするときの有効であることを理解させる。

このような学習を通して得られる能力や態度は、目的や必要に応じて知識や情報を選択し、以前読んだ本や文章と比べたり、自分のもっている知識や情報、現実などと結び付けたりして、自分の考えを深めていこうとする態度へと結び付いていくものである。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心を持っているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

<p>① 「ありの行列」の初発の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありの行列やありのことがよく分かった。(20)</li> <li>・ありはすごい。(6)</li> <li>・おもしろかった, 楽しかった(6)</li> <li>・ウィルソンの研究はすごい。(5)</li> <li>・知らないことを実験して調べるのはいい。(1)</li> <li>・ありのしくみがくわしく分かりやすくこまかいところまでかいてある。(1)</li> </ul>	<p>③内容の把握(実験・観察, 研究の内容とその理由)</p> <p>第4段落 大きな石をおいた(35) 分からない(4) (理由) なぜ最初の道からはずれないのか(8) どうなるのだろうか(11) 列が乱れるか知りたかった(5) さえぎるため(6) 何かひみつがあるのでは(1)</p> <p>第6段落 体のしくみを調べた(32) 分からない(7) (理由) 何か出しているのではと考えた(17) 仕組みを研究するため(3) なぜか調べるため(2) はたらきありのを知りたかった(2) ありが好きだから(1) 大きな石を置いても続いたから(1)</p>
<p>②驚いたことや疑問に思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な液について(18)</li> <li>・きょう力すること(4)</li> <li>・ウィルソンのこと(4)</li> <li>・目が見えないこと(4)</li> <li>・行列のこと(2)</li> </ul>	
<p>④接続語及び文章構成</p>	
<p>文章の構成 (0)      接続語    はじめに(36)    つぎに(25)    そこで(24)</p>	
<p>⑤難語句</p>	
<p>道しるべ(6) 行列(5) 研究(5) ちりぢり(5) す(5) 学者(4) みだれる(4) じょうはつ(4) さえぎる(4) ひとつまみ(3) 行く手(3) 実験(3) 目的地(2) 道すじ(2) 細か(1)</p>	

まず、子どもたちは、アリやウィルソンの実験・観察の内容へ対して、興味・関心を持っていることが分かる(①・②)。しかし、内容面へ目を向ける子どもがほとんどであり、「どのように」書かれているかという表現形式面へ目を向けている子どもはほとんどいない。これは、これまでの学習で、形式面へ着目した読み取りの経験が少ないためであると考えられる。

内容の把握については、ウィルソンの行った実験・観察・研究内容の大体をとらえている子どもは多いものの、その理由についてまで把握できている子どもは少ない(③)。実験・観察・研究についての理由は、それぞれ一つ前の段落に述べられていることから、多くの子どもが、段落の大まかな意味は分かっているものの、2つの実験・観察と研究内容の因果関係等、段落のつながりを意識した読みができていないことが考えられる。このことは、文章の構成を理解している子どもが一人もいなかったこと、接続語である「つぎに」と「そこで」の順序を誤る子どもが比較的多かったことなど、文章構成や文章の内容と接続語の関連を考えた読みができていない子どもが少なくないことにも表れている(④)。

難語句については、題名に関する語句や読み取りにおいて重要となる語句も多く挙げられている(⑤)。

### (4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、説明文の述べ方に目を向けさせる働きかけを工夫することで、生き物について書かれた文章を読んだ感想を書く際の手がかりをつかませることが大切である。

ア 読んで感想をもつことへの興味・関心を高めるために、「生きもの不思議カード」を作成することを伝える。また、ウィルソンの研究の動機をとらえさせるために、「ありは、ものがよく見えないうい。」という事実や、その叙述に続く「それなのに」という指示語や「問い」の文を確実におさえるようにする。さらに、ウィルソンが行った実験・観察、研究というそれぞれの段落のつながりをとらえさせるために、実験・観察、研究の順序性を考えさせ、それぞれの段落がつながっており、大きな意味で一つのまとまりであることをとらえさせたい。

イ 説明文を読み取る技能を高めるために、「いるかのねむり方」において、段落や文章構成について理解させた上で、「ありの行列」を読ませ、それらや順序を表す接続語、前文をまとめる「このように」などの言葉を意識できるように話し合う中で価値付けていく。

ウ 自分の読み深め方を振り返らせるために、導入時に書いた感想と、教材文を読み取った後に書いた感想とを比較させ、自分の読み取り方の変容に気付かせたり、並行読書を行った生きものについての読み物の感想を書かせたりすることで、学ぶ喜びを味わわせる。

### 3 目 標

- (1) 身近な生き物の不思議について書かれた文章を読んで感想を書くことに興味をもち、説明の順序、原因・結果を確かめながら進んで読もうとすることができる。
- (2) 説明の順序に注意しながら、ありの液と行列ができることとの因果関係を考えて、内容のまとまりをとらえることができる。
- (3) 生き物の段落のまとまりごとに、どんなことが書かれているかを読み取ることができる。

### 4 指導計画（全9時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
<p style="text-align: center;">つかむ・みとおす②</p> <p style="text-align: center;">しらべる・ふかめる④</p> <p style="text-align: center;">ふりかえる・いかす③</p>	<p>身近な生きもの不思議なところはどこかな。</p>	<p><b>1 内容への興味の喚起と学習目標の設定</b>  「生き物の不思議を発表し合おう。」  ・生き物の不思議さについての発表 ・教材の音読  ・初発の感想 ・単元の目標設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材への興味・関心を高めさせるために、理科や生活科で観察した身近な生き物の写真やアリを提示し、不思議に思うことを話し合わせたり、感想カードのモデルを示したりする。</li> <li>○ 文章構成や形式段落について学ばせるために、「いるかのねむり方」を「はじめ」「中」「おわり」の三つに分けさせる。</li> <li>○ 内容のまとまりをとらえさせるために、ありの行列との因果関係をとらえようとする意識で読ませる。</li> <li>○ 段落のつながりをとらえさせるために、内容と指示語、接続語等の表現の仕方をつながりながら段落相互の関係について考えさせる。</li> <li>○ ねらいに沿った感想をもたせるために、「ありの行列」を「何が」「どのように」という視点で読ませる。</li> <li>○ 教材文の感想の他に、他の読み物を読んで自分の感想をもてるようにするために、並行読書をさせる。</li> <li>○ 感想を書きやすくするために、文章構成や感想語彙、引用、要約等、感想文の書き方を示すようにする。</li> <li>○ 本単元の学習を今後に生かすために、どのような場面で感想をもつことが役に立つのか話し合わせる。</li> </ul>
	<p>生きものについての本を読んで感想を書くのだな。</p>	<p>生き物の不思議についての読み物を読んで、感想をもち、友達と伝え合おう。</p>	
	<p>「はじめ」「中」「おわり」を初めて知ったよ。</p>	<p><b>2 「いるかのねむり方」の読み取りと感想</b>  ・「問い」と「答え」 ・形式段落の要点  ・文章構成 ・事実と意見、感想  ・感想（内容・書かれ方の意識化）</p>	
	<p>ウイルソンは、どんなことをしたのだろう。</p>	<p><b>3～6 「ありの行列」の読み取り</b>  3 「ウイルソンは、どのような問いをもったのだろう。」  ・「問い」と「答え」 ・文章構成  4 「ウイルソンは、どのような実験・かんさつを行、どんなことを考えたのだろう。」  ・2～5段落の要点  5 「ウイルソンは、どのような研究をして答えを出したのだろうか。」  ・6～9段落の要点  6 「ありの行列」の感想・交流  ・感想（内容と書かれ方）  ・感想の交流</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">「ありの行列」の感想カードの作成</p>
	<p>接続語に気を付けて読むといいんだね。</p>		
	<p>ありの行列ができるわけが分かったぞ。</p>		
	<p>ウイルソンが、どのようにして問いを解決したか分かったぞ。</p>		
	<p>ありの行列と同じように二つの視点で読んで、感想をもってみよう。</p>	<p><b>7～9 生き物の不思議についての読み物の読書・感想カードの作成・交流</b>  <b>学習の振り返り・評価</b></p>	<p style="writing-mode: vertical-rl;">生きもの不思議カードの作成</p>
	<p>いろんな本を読んで、感想をもつようにしましょう。</p>	<p>いろいろな生き物の不思議についての読み物を読んでの感想を、みんなと交流することができた。</p>	

## 5 本時（4／9）



### (1) 目標

接続語や指示語、文末表現に着目したり、段落のつながりに気づいたりして要点をまとめ、ウイルソンが、ありが地面に何か道しるべをつけたのではないかと考えた理由をとらえることができる。

### (2) 本時の展開に当たって

ウイルソンの考えたことについて深く理解させるために、話合いを通して、「これらの」という前文までを受ける言葉や接続語と共に、段落のつながりに気付かせる。

### (3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 前時までの学習を基に、本時の学習範囲を確認する。	(分) ↑ 5 ↓	○ 課題意識をもたせるために、感想を書くという読みの目的やウイルソンの研究の動機や「問い」を確認する。 ○ 感想を書く際の視点である「内容」と「書かれ方」を意識させるために、学習課題の設定の際には、「どのように読み取っていけばいいのか」という読みの課題についても確認する。
	2 本時の学習場面を読み、課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ウイルソンは、どうして、ありが地面に何か道しるべをつけたのではないかと考えたのだろう。                 </div>		
しらべる	3 学習の進め方を確かめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ○ 二つの実験・観察の内容とその結果から分かったことを読み取る。                      ○ ウイルソンが道しるべをつけたのではないかと考えた理由を話し合う。                 </div>	↑ 20 ↓	○ 見通しをもって主体的に学習させるために、一人調べで二つの実験から分かったことをまとめたあと、道しるべをつけたと考えた理由についてみんなで話し合うという学習の進め方を確認する。 ㊦ なかなか書き出せない子どもに対しては、読み取りを行いやすくしたヒントカードを提示したり、一緒に考えたりする。 ○ ③段落と④段落の順序性に注目させるために、③段落と④段落の順序は反対でもよいか、根拠を基に話し合わせる。
	4 二つの実験・観察について読み取り、分かったこと（要点）をまとめる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書かれ方</div> </div> <div style="margin: 5px 0;"> <p>はじめのありが楽に帰るときに通った道すじからはずれなかったよ。</p> <p>石で行く手をさえぎったけれど、またありの行列はできたよ。</p> <p>つなぎ言葉に気をつけて読んでいくといいよ。文のおわり方に気をつけて「したこと」と「分かったこと」を分けて考えるといいよ。</p> </div>		
ふかめる	5 ウイルソンが、道しるべをつけたのではと考えた理由を話し合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">書かれ方</div> </div> <div style="margin: 5px 0;"> <p>大きな石でさえぎっても、また、はじめと同じ道すじに行列ができたから、道しるべをつけたと考えたんだね。</p> <p>段落どうしは、つながっているんだね。「も」に気をつけるといいよ。「実験」→「分かったこと」→「考え」という書き方になっているんだね。</p> </div>	↑ 15 ↓	○ 実験・観察の内容を把握したり、段落相互の関係をとらえられるようにしたりするために、絵図を用いた構造的な板書を行うようにする。 ○ 各段落のつながりを意識させるために、接続語や文末表現などの表現の仕方に着目している発表を価値付ける。 ○ 読みの目的である感想を書く時の材料とするために、感想カードには、「内容」と「書かれ方」の二つの視点で書くようにする。
	6 本時のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ウイルソンは、行列の道すじがかわらないことが分かり、ありが地面に何か道しるべをつけたのでは、と考えた。                 </div>		
ふりかえる・いかす	7 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。	↑ 10 ↓	○ ウイルソンの推論の理由が分かった喜びを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。